

情報収集衛星の開発・運用事業費（内閣衛星情報センター）

4年度予算案 **625.2億円**
 （3年度当初予算額 625.3億円）

事業概要・目的

○ 外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的とした情報収集衛星の開発等を行い、政府の情報機能を強化します。主に以下の施策を実施します。

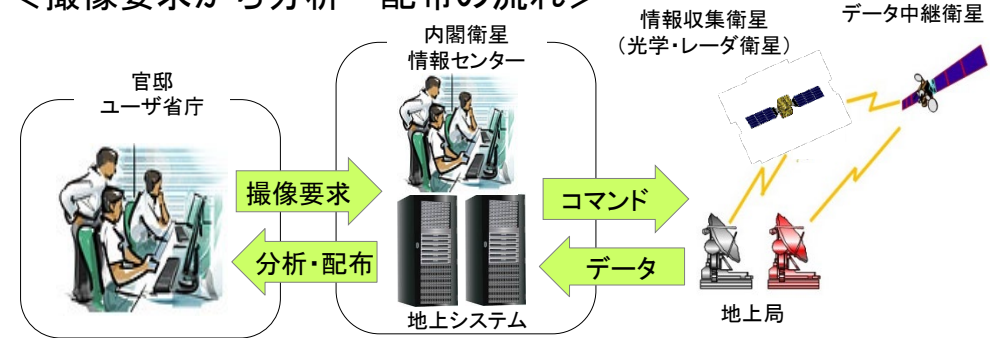
- （1）「基幹衛星」4機に、「時間軸多様化衛星」4機及び「データ中継衛星」2機を加えた合計10機の整備を目標とし、着実に衛星開発を進めます。
- （2）即時性の向上やデータ量の増加に対応した地上システムの開発を進めます。
- （3）情報収集衛星システムの大幅な機能・性能の向上を図るため、重要技術の先行研究開発を進めます。

事業イメージ・具体例

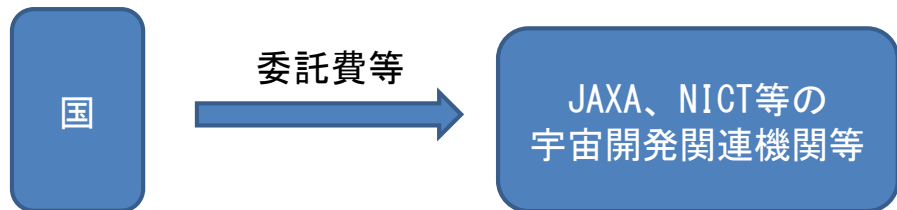
<10機体制の概要>

- ・基幹衛星及び時間軸多様化衛星により地球上の特定地点を1日に2回以上撮像することが可能。
- ・時間軸多様化衛星を基幹衛星と異なる時間帯に配備することで、これまでとは異なる時間帯での撮像が可能。
- ・データ中継衛星の利用により、伝送時間を大幅に短縮し即時性が向上。

<撮像要求から分析・配布の流れ>



資金の流れ



期待される効果

○外交・防衛等の安全保障及び危機管理のために必要な情報の収集を確実にし、安心・安全な暮らしの実現に貢献します。

危機管理強化のための情報収集衛星の開発等（内閣衛星情報センター）

令和3年度補正予算額 175億円

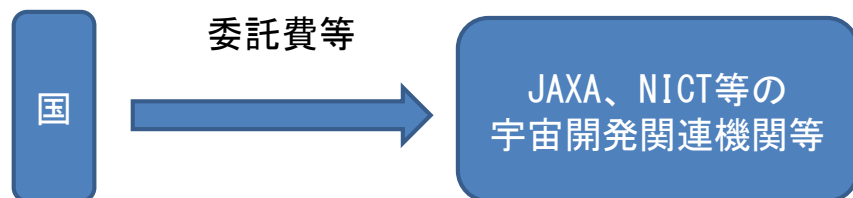
事業概要・目的

- 外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的とした情報収集衛星の開発等を加速化し、政府の情報機能を強化します。
- 情報収集衛星システムの機能の拡充・強化等のため、主に以下の施策を実施します。
 - (1) 情報収集衛星光学8、9号機、レーダ7、8号機、光学多様化1、2号機及びレーダ多様化1号機の開発工程における遅延リスクの低減
 - (2) 打上げ用ロケット（レーダ7号機）の製造体制の強化

事業イメージ・具体例

- 情報収集衛星光学8、9号機、レーダ7、8号機、光学多様化1、2号機及びレーダ多様化1号機の開発等に必要な部品・材料等の調達、製作・試験や設計を可能な限り早期に実施することで、開発工程における重要な品質の問題等を早期に把握・解決します。
- 打上げ用ロケット（レーダ7号機）の組立・試験工程の前倒しを実施し、ロケットの組立・試験工程の時間を十分に確保することで、ロケット製造体制を強化し、確実なロケットの打上げを行います。

資金の流れ



期待される効果

- 衛星等の開発工程におけるスケジュール遅延リスクを低減し、確実な衛星の開発・打上げを実施します。
- 情報収集衛星の確実な開発・打上げを通じて必要な情報の収集・分析等を行うことにより、国民の安全・安心の確保に貢献します。